

事業事前評価表

平成 22 年 12 月 15 日

国際協力機構アフリカ部中西部アフリカ第二課

1. 案件名 (国名)

国名：コンゴ民主共和国

案件名：キンシャサ大学病院機材整備計画

Le projet d'aménagement en équipements des cliniques universitaires de Kinshasa

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における保健セクターの現状と課題

コンゴ民主共和国(以下コンゴ(民))では、紛争の影響により、保健システムが脆弱であり、医療施設や医療従事者が質・量ともに不足していることなどから、保健衛生状況は極めて悪い。既存資料によれば乳幼児死亡率 126 (出生 1 千に対し)および妊産婦死亡率 1,289(出生 10 万に対し)と極めて高く、また、感染症も、結核(死亡原因第一位の結核については 402 万人の患者のうち 13,000 人が死亡(2004 年)、HIV/AIDS については推定感染率 4.5%と劣悪な状況にある。

キンシャサ大学病院は、母子保健サービスを提供するトップリファラル病院であり、医療従事者及び準医療従事者の研修を実施する国内医療機関の中核である。しかし必要な医療機材の多くが老朽化・故障しており、医療サービスの提供および研修の実施に支障をきたしている。

(2) 当該国における保健セクターの開発政策における本事業の位置づけ

保健分野はカビラ大統領が就任演説で掲げた重点 5 分野の 1 つであり、貧困削減戦略文書 (PRSP) の優先開発課題「社会サービスへのアクセス改善」の中に含まれるとともに、保健開発計画 (2000-2009) の中でも、同病院の施設・機材の改善が謳われている。

(3) 保健セクターに対する我が国及び JICA の援助方針と実績

我が国は、コンゴ(民)の民主化プロセスの進展を背景に、2007 年 2 月の経協政策協議において対コンゴ(民) ODA の二国間の本格的再開を決定し、「平和の定着」、「経済開発」、「社会サービスへのアクセス改善」を 3 つの重点分野としてコンゴ(民)政府と合意した。保健分野はこの内「社会サービスへのアクセス改善」の中に位置づけられる。また、本件は、ミレニアム開発目標の「妊産婦の健康改善」「乳幼児死亡率の低減」および、TICAD IV 横浜行動計画の「1000 箇所の医療施設の改善」「10 万人の保健人材の研修」に資する案件であり、我が国の方針に合致する。

実績としては、2008 年度より現在まで、保健アドバイザー、保健人材育成技術及び看護教育の専門家派遣、保健省トップマネジメントを招聘した国別研修、5S-TQM(きれいな病院プログラム)研修の実施などを通じ「保健医療サービスへのアクセス改善プログラム」を展開しつつある。また、同プログラムの構成案件として、無償資金協力事業「保健人材センター整備計画」も実施準備中である。

(4) 他の援助機関の対応

コンゴ(民)保健医療セクターにおいては、援助機関調整メカニズムが良好に機能しており、国家保健開発戦略の遂行に重要な役割を果たしている。保健分野支援パートナー会議は、国連主導でなく、ベルギーやカナダなどによる二国間協力が中心であり、わが国も参加している。

3. 事業概要

(1) 事業の目的（協力プログラムにおける位置づけを含む）

キンシャサ大学病院の産科・新生児サービス部門に関連する医療機材の整備により、病院の技術レベル・実習の受入能力の向上を通じた第三次レファラル病院としての機能強化を図る。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

キンシャサ大学病院/キンシャサ市内

(3) 事業概要

1) 土木工事、調達機材等の内容

【機材】産婦人科、新生児科関連の検査・手術、集中治療室等の医療機材 135 品目

2) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

以下 2 種類のソフトコンポーネントを実施

「機材の維持・廃棄等の管理体制強化」

「適切な妊産婦と新生児ケアのためのセミナー」

(4) 総事業費/概算協力額

7.29 億円（概算協力額（日本側）：7.28 億円、（コンゴ民側）0.01 億円）

(5) 事業実施スケジュール（協力期間）

2010 年 5 月～2011 年 11 月を予定（計 19 ヶ月。入札期間を含む）

(6) 事業実施体制（実施機関/カウンターパート）

実施機関：キンシャサ大学病院

(7) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

カテゴリ分類：「C」

影響と緩和・軽減策：特筆すべき負の影響はなし

2) 貧困削減促進：地域住民にも裨益する病院となる

3) ジェンダー：女性の健康向上

(8) 他援助機関等との連携・役割分担

UNFPA が同病院への機材を一部供与しており、これとの重複を避けて計画する。

(9) その他特記事項：特に無し

4. 外部条件・リスクコントロール

(1) 事業実施のための前提条件

特に無し

(2) プロジェクト全体計画達成のための外部条件

コンゴ（民）における保健医療政策が大きく変更されない。

コンゴ（民）における治安情勢が悪化しない。

5. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

キンシャサ大学病院には、我が国の無償資金協力によって 1987 年に機材整備をしており、国内外の医学教育、3 次レベルの医療サービス提供に多大なる貢献をした。十数年の紛争にもかかわらず、20 年以上経った現在でも、当時供与された医療機材のいくつかは老朽化しつつも適切に維持管理され、十分活用されてきている。この理由として、当時、機材修

理・保守にかかる研修を実施するとともに、スペアパーツや工具を協力内容に含めたことが挙げられるため、今回も同様の協力をあわせて行うこととする。

6. 評価結果

以下の内容により本案件の妥当性は高く、また有効性が見込まれると判断される。

(1) 妥当性

本案件は、母子保健サービス向上の観点から、本来あるべき母子病院の中核的機能を十分に果たすとともに、1-2次レベルの医療施設で働く医療従事者の研修・実習機関としての機能回復を行うための機材整備であり、必要性・妥当性が認められる。

(2) 有効性

1) 定量的効果

指標名	基準値 (2008年)	目標値 (2013年)
外来患者受入数	1,394	3,000
帝王切開の件数	425	552
婦人科手術の件数	0	53
放射線検査数	0	1,300

2) 定性的効果

①手術・外来患者数が増加することで、医療従事者の卒前実習および1-2次レベルを担う中級保健人材の現任教育機関としての受入能力が向上する。

②キンシャサ市における中核的病院としての機能が回復し、母子保健分野における質の高い3次医療サービスの提供がなされる。

7. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる主な指標

6.(2)1)のとおり。

(2) 今後の評価のタイミング

事後評価 事業完成3年後

以上